

# 中学校 1 年 3 組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 井上 富美子

箸入れの製作においてグループや全体での話し合い活動を取り入れ、互いに考えを出し合ったり、確かめ合ったりする学び合いを行うことは、製作の知識・技能を高め、課題を解決していく力を育てることに有効であったか

## 1 題材名 箸入れをつくろう ～小学校で学んだことを生かして～

### 2 授業の構想

(1) 1年生にとって中学校に入って初めての被服製作題材であるが、生徒はこれまで小学校の家庭科で布を使った製作を行ってきており、5年生のフェルトを使った小物作りや、6年生の袋作り、エプロン作りなどを通して、基本的な手縫い（なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ボタン付け）やミシン縫い（直線縫い）などを経験している。しかし、各小学校により製作題材が異なったり、製作時間に差があり、個人差が大きいと考えられる。授業の後、家庭で針を持ったことがほとんどない生徒も多く、小学校の知識や技術が十分定着していないことも予想される。

また、小学校では市販の教材を使うことが多いため、採寸やしるし付け、型紙など最初から被服製作することが少なく、製作全体を見通し完成を予想して製作する経験はあまりないと思われる。

(2) 本題材は、箸入れの製作を通して被服製作の基礎を再度確認するとともに、小学校で学んだ知識や技術を活用して生活に役立てることをねらいとしている。また、技術分野で製作した箸を家庭分野で活用することで、技術・家庭科の教科全体が生活に結びついていることを実感的・体験的に知らせたいと考える。そして、実際に箸や箸入れを日常生活の中で使用させてみて、きちんと箸を管理することでくり返し長期の使用に耐え、環境の視点からも優れていることや、さらにより使いやすいものに改善していけることを学ばせたい。

布での製作は紙やその他の素材とは異なり、その取り扱いや構成に特徴がある。本題材では小巾もめんを使用することで、布の方向やみみの使い方など布の性質を知らせ、裁ち目の始末の仕方や縫いしろの必要性に気づかせていきたい。

製作全体を見通すために、ただ単に手順に沿って作業を進めていくのではなく、出来上がり作品から逆に製作方法や縫い方を考えたり、製作過程において、それぞれの作業の必要性や意味を考えさせながら進めていきたい。グループや全体での話し合いを取り入れることで、新しい発見をしたり、個人の考えを深めさせたりしたい。様々な方法の中から自分に合ったものを選び、自分なりに工夫してより役立つものにしていくよう指導したい。

完成した作品は、自己評価により出来上がりを確認するとともにペアで相互評価を行い、互いの出来上りを認め合ったり、アドバイスし合ったりすることで、完成した達成感をもって、作品をさらによりよいものにしようとする意欲につなげていきたい。

これらの学習活動により、被服製作の知識や技術を高めながら、製作における自己の課題を解決をしていく力、思考力・判断力・表現力を育てることをねらいとしている。

(3) 本題材では、技術分野で製作した自分の箸に合った箸入れを考えさせることによって、布による製作の基本を押さえ、出来上がりの姿から、その製作方法や手順を理解させたい。

まず小学校での経験を基にして、布の特徴や縫い方の基本などを思い出させる。実際に布に触れて、布は方向があり方向により強度や伸び方に違いがあること、切った裁ち目がほつれるので縫い代やその始末がいることなどを知らせる。小学校での製作の経験から布を裁断するときはどうしたか、どのような縫い方をしたかなど思い出させる。

次に、箸の大きさや出し入れの仕方を考えながら、箸入れの形や大きさを考えさせる。箸入れの形としては、小学校の経験から巾着型や長方形の袋状のものが予想されるが、箸の入れ方や閉じ方により、袋状のものだけでなく、包む形のものもあることや、形も長方形だけでなく三角形のものなどもあることに気づかせたい。実際に市販されている箸入れなどを見せていろいろな形のものがあることを知らせたいと思う。

本時では、自分が作りたい箸入れの作り方を考える。箸入れの形ごとにグループに分かれて、出来上がり予想したり、完成した箸入れを見ながら、その箸入れを製作するには、どのような手順でどのような縫い方をすればよいか考えさせたい。小学校で学んだことや各自の経験をもとに意見を出し合い、図に描いたり、実際に布を縫ってみたり、完成品を解いたり、グループで作業を通して試行錯誤させながら考えさせたい。

グループで考えたことを全体場で発表し、自分たちの考えを伝えたり、他のグループと比較することにより、箸入れにより適した縫い方や製作の手順を考えさせたい。発表するときには、図を使ったり、実際に布で作ってみせたりして、具体的に説明できるようにしたい。また、発表を聞くときも、布の使い方、縫い方、完成品の使い方など共通の視点を持たせて、自分たちの考えと比較できるようにしたい。

発表後、自分たちのグループの考えや他のグループの意見を参考にしながら、自分が作る箸入れを決定し、これからの製作の流れを確認させたいと思う。

### 3 展開計画（全5時間 本時1/5）

次	主な学習活動・内容	時	具体的な学習活動	技術・家庭科における思考力・判断力・表現力の評価の観点
1	箸入れを考えよう	1  ②	・箸に合った箸入れの形や大きさを考える。  ・作り方や手順、縫い方を考える。	小学校の経験や友だちの考えを取り入れながら、自分の箸入れの形、大きさ、作り方を考えている
2	箸入れをつくろう	3  4	・布にしるし付けをし、裁断する。 ・できあがり線を縫い合わせ、縫い代の始末をする。 ・袋の口止めるひも、ボタンなどを付け、仕上げをする。	できあがりを予想しながら製作を進めている
3	箸入れのできあがり確かめよう	5	・自分の箸を入れ、できあがりを確認する。 (自己評価・相互評価)	作った箸入れを自己評価できる

### 4 本時の学習

#### (1) ねらい

小学校の経験や友だちの考えを取り入れながら、自分の箸入れの作り方を考える。

#### (2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
1. 箸入れの形や大きさを確かめる。 ・巾着型 ・三角型 ・ペンケース型 ・その他	・前時に考えた箸入れの形や大きさを確認する。 ・箸の大きさから、出来上がりがどのくらいの長さや幅があるか、出し入れの仕方はどのようにするかを確認する。

自分の箸入れの作り方を考えよう

2. グループで箸入れの作り方を考える。

- ・布はどのくらいいるだろう
- ・どのように作ったらよいだろうか

- ・布の性質や小学校での製作を思い出させながら、布の方向・特性や製作に適した縫い方、縫い代の必要性、裁ち目の始末などに気づかせたい。
- ・箸入れを作るにはどのような方法・手順で作業をしたらよいか、実物や布を用いて考えさせる。
- ・紙に描いたり、布で縫ってみたりして、実物を解いてみたり、実際にどのように作ればよいか作業を通して考えさせたい。

3. グループで考えた箸入れの作り方を発表する。

- ・布をどのように使って作るか
- ・どんな縫い方でどのように縫うか
- ・箸をどのように出し入れするか

- ・実際の布や図を使いながら、布の使い方や裁断の仕方を説明できるようにする。
- ・裁断した形のどのように縫い合わせると完成した形になるか、具体的に説明できるようにする。
- ・縫い方や縫う順番によってきれいに効率的にできることに気づかせたい。
- ・箸入れの条件を思いださせ、布の性質や縫い方の特徴をいかして、よりよい方法を考えさせたい。

4. 班で話し合ったことや発表をを参考にして、自分の箸入れの形や大きさ、作り方を決める。

- ・自分の箸の大きさにあっているか
- ・箸の出し入れや使いやすさはどうか
- ・縫い方・縫う手順はよいか

- ・他の班の考えを聞き、自分たちの考えと比較しながら、よりよい方法や縫い方を考えさせたい。

評価の観点（思考力・判断力・表現力）

小学校の経験や友だちの考えを取り入れながら、自分の箸入れの作り方を考えることができる【評価方法 ワークシート】

5. 学習のまとめ、ふりかえりをする。

- ・自分の箸に合った箸入れを考えることができたか
- ・友だちの意見を参考にしてよりよい形や作り方にすることができたか

- ・ワークシートで本時の学習のねらいが達成されたか自己評価させる。